

〔第129回銀行業務検定試験〕

「外国為替3級」団体最優秀賞受賞
「法務2級」「法務3級」「財務2級」「税務3級」団体優秀賞受賞

京都銀行

いい銀行づくり ～地域とお客様に選ばれる銀行～

今回は、去る平成26年10月26日(日)に実施された第129回銀行業務検定試験「外国為替3級」において団体最優秀賞、「法務2級」「法務3級」「財務2級」「税務3級」において団体優秀賞を受賞されました京都銀行へお伺いしました。

京都銀行は、昭和16年に創立され、資本金421億円、従業員数3,361名、店舗数167か店を有する金融機関です(平成26年3月31日現在)。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、京都銀行金融大学校学校長の奥野美奈子さんです。

●京都銀行に求められる人材

はじめに、京都銀行に求められる人材について伺いました。

「いま、第5次中期経営計画『ビジョン75 いい銀行づくり』が進行中ですが、その柱の1つに「人材戦略」があります。そこには、躍動感あふれる人材を育成し、みんなが生き生きと働くことで、組織をより活性化させるという大きなテーマがあります。金融大学校では、目指す行員像を、「主体性を発揮してワンランク上の仕事を実践する」として掲げ、パートタイマー、一般行員から支店長、本部の行員を含めて各職位において主体性をもって何をすべきか考えることができるように学びを実践しています。そもそも京都銀行においては、「自ら学びそれを実践して後輩に伝え・教えていく」、ということを大切な文化と考えています。人材の育成とは、誰かに育てられるものではなく、自走し、自分たちで育っていく、そして自分たちで組織自体を作っていくものだと思っています。そういう考えのもと金融大学校ができています。基本的または定型的な内容等については、当然にクリアしなければならないものですが、求められるものをやるだけではなく、さらにワンランク上のものを目指しましょう、ということで人材育成を進めています」とお話をくださいました。

団体最優秀賞受賞について今回の受賞について伺ったところ、「大変、喜んでます。先ほどお話しした第5次中期経営計画中に、あえて外国為替3級合格者1,500人体制という数値目標を掲げることにより、「外国為替3級」について、チャレンジをしてもらう資格試験という位置づけにしました。業務繁忙のなか、日常の業務において直接的にかかわらない行員を含めて、たくさんの方にチャレンジしてもらった結果です。

また、外国為替を勉強してもらうことにより、国内の銀行業務を幅広く見通す目、そして力が養われ、業務に対する目線がワンランクあがったのではないかと考えています」とのことでした。

また、海外サポートに関連して海外に4つ駐在員事務所があるとのことでした。そのなかで今回の外国為替3級合格者1,500人体制という数値目標については、駐在員事務所のみならず、日本での日常の営業活動においてお客様からの海外にかかわる仕事の相談等に対応できるように、そして多くの行員に海外サポートの仕事を幅広く知ってもらうには、何が良いかというときに外国為替3級がクローズアップされたとのことでした。

●銀行業務検定試験の位置づけ

京都銀行における銀行業務検定試験の位置づけについて伺ったところ、「法務・財務・税務の各3級につきましては、全行員が取得しておくべき資格として奨励しており、ほとんどの行員がチャレンジし、クリアしてくれています。一方、2級FP技能士については、当初1,000人の取得を目標としていましたが、現在は常時2,000人以上の行員が資格を保有する状況となっています」とお話をくださいました。

また、「もちろん銀行業務検定試験の2級も推奨しています。自立型の人材の素養として取得してもらいたいと考えていますので、受けさせるのではなく、受けて当たり前くらいの意識が伝わればと思っています」とのことでした。

●経営理念の実現に向けて

人材育成の方針について伺ったところ、「平成22年4月に設立しました金融大学校の趣旨は、自ら学ぶ、それを実践する、そして後輩に伝えていく、『学びあい、育てあい』です。私どもの使命自体は銀行の経営理念である地域社会の繁栄に奉仕することです。行員がそれぞれの持ち場で、それぞれのお客様に役立つために、いわれたことを学ぶのではなく主体的に必要なことを学び、それを組織として伝承することが金融大学校ができた理由でもあります。それを今後も継承し、お互いが切磋琢磨しお互いを高めあえる組織でないと、お客様の信頼は得られないと思っています」とのことでした。

また、「今後、高齢化がさらに進んでいきますので、高齢となられるお客様を銀行の業務でサポートするのみならず、他にお助けできることを自ら考える行員を育てていかなければいけないと思っています」とお話をくださいました。

●銀行業務検定試験への要望

最後に銀行業務検定試験への要望を伺ったところ、「自ら考えることができる行員を育てたいと常々思っていますので、考え方を問うような出題形式の問題をより上位の試験に反映していただきたいです。本質的な理解を確認できるものを期待しています。より上位の試験に合格することにより、相応の判断力が身につけていると言える指標であればと思います。お客様のお役に立ちたいという思いを原点に、高い志をもってチャレンジしてもらえ行員が育つ組織ができるようにと考えていますので、今後もサポートしていただければと思います」とお答えいただきました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応いただきました奥野さんには、心から感謝申し上げます)



▲京都銀行 金融大学校 桂川キャンパス



▲学校長 奥野美奈子さん